

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520467

研究課題名(和文)ハラジ語の言語構造についての記述的・理論的研究

研究課題名(英文)Descriptive and theoretical research of the linguistic structure of Khalaj

研究代表者

栗林 裕(Kuribayashi, Yuu)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：30243447

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、イラン・イスラム共和国で話されているチュルク系の危機言語であるハラジ語について、語彙構造や文法構造の観点から、現在の状況を記述することである。この目的を達成するために、すでに記述された言語資料だけでなく、現地調査を実施することにより現在の様相を明らかにした。本研究成果は、収集した記述的言語資料の分析のみならず、一般言語理論に対する貢献を含むものである。研究成果は日本、トルコ、フランス等の国の内外で口頭発表や学術論文および学術研究書の出版を通して精力的に発表した。

研究成果の概要(英文)：The aim of our research project is to describe the current state of endangered Turkic Khalaj, which is spoken in the Islamic Republic of Iran, with respect to both lexical and grammatical structures. To attain this goal, we conducted field research as well as analyses of documented materials to expose the current states of the language. Our contributions are not only limited to descriptive analysis of collected linguistic materials, but also include theoretical contributions for general linguistic theory. Our findings are presented in international conferences held at France, Japan and Turkey, and published as articles in academic books and journals.

研究分野：人文学

キーワード：チュルク語 ハラジ語 トルコ語 基礎語彙 イラン 形態論 関係節化 言語接触

## 1. 研究開始当初の背景

(1) ハラジ語は、イラン・イスラム共和国中部の非常に狭い山岳地域で話されているトルコ系(チュルク諸語)の極小言語であるが、その系統は明らかになっておらず、非常に古い言語形式を保持しているという点で注目を集めている。

(2) ハラジ語を母語とするハラジ族の話者数は、試算によると約 28,000 人とされるが、実数はさらに少ないと考えられ、すでに若年層の話者はペルシア語にシフトしており、今世紀中に消滅するであろうとされる。

(3) 本研究は、ハラジ民族出身の母語話者の面接調査に基づく言語記述や文献調査により、記述的・理論的分析を試みるものである。日本国内においてはハラジ語についての研究実績はなく、本研究は海外で行われてきた記述的言語研究の補完を意図している。

## 2. 研究の目的

(1) イランのチュルク語系の極小言語であるハラジ語の音韻および文法について現地調査を行うことにより、言語記述とその理論的な意味合いについての分析を行い、言語の実態を明らかにする。

(2) ハラジ語の特筆すべき点は、系統的に周辺のチュルク語南西グループ(オグズグループ)に属しておらず、チュルク語の古い形式を保持している点にある。このことは、言語史や言語接触の観点から非常に注目されており、現状の調査と分析が急務である。

## 3. 研究の方法

本研究の分析方法は概ね以下の通りである。

(1) ハラジ語の古い形式の保持に注視しながら音声や文法を含む言語の記述を行った。

(2) 他動性等の語形成に関わる言語資料の重点的に調査し、形態的にみられる言語変容の解明を行った。

(3) 言語変容の要因の分析を目的とする言語接触理論や文法理論に対する新しい言語データの提供を行った。

(4) ハラジ語の理解と将来展望に向けて、その現状の報告を行った。

(5) 研究成果の迅速な公開と社会的還元を行った。

## 4. 研究成果

ハラジ語の研究は初期の記述的研究から既に約 40 年が経過しているが、近年の急速な言語変容の状況が十分に明らかになっていないとはいえない。本調査を実施することにより、主に次のような点からある程度の現状の把握が可能となった。

(1) 基礎語彙を中心に、形態構造と統語構造の全体像を音声データと共に調査し現時点での状況を記述した。

(2) 言語接触による言語変容の提示することにより、一般言語学的な貢献をした。具体的には関係節化や他動性についての理論的分析を行い、従来の記述的研究に欠けている視点を提供した(国際学術雑誌へ論文として出版)。

(3) 非専門家や一般社会の人々に対してハラジ語の社会的・文化的状況を情報発信することにより、少数民族や少数言語がかけがえない存在であることを伝えた(国内研究会での発表や海外の研究者を招いてセミナーの実施)。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

1. Kuribayashi, Yuu. Grammaticalized Topics in Kashkay: The Implication for the relativization of Turkic languages. In Kincses-Nagy, É, and M. Biacsi (eds.) The Szeged Conference. Studia uralo-altaica 49. Szeged: University of Szeged. 2012. pp.311-318.[査読有]

2. Kuribayashi, Yuu. Transitivity in Turkish. 『アジア・アフリカの言語と言語学 7』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2012. pp.39-52.[査読有]

[学会発表](計 8件)

1. 栗林裕「ハラジ語 イランで話されているチュルク系言語」2014年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」(京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター平成 27 年 3 月 27 日)。

2. Kuribayashi, Yuu. Verb-Verb compounding in Turkish. Paper presented at 17th International Conference on Turkish Linguistics. (3-5 September 2014, Rouen, France, Université de Rouen).

3. Kuribayashi, Yuu. Verb-Verb Compounds

in Turkish and Turkic Languages. NINJAL INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2013 MYSTERIES OF VERB-VERB COMPLEXES IN ASIAN LANGUAGES. 国立国語研究所 (国立国語研究所 平成 25 年 12 月 15 日).

4. Kuribayashi, Yuu. TÜRKOLOJİ ÇALIŞMALAR. International Symposium of Cultural Values of the Turkish World (オスマンガージ大学、トルコ共和国 エスキシェヒール 2013 年 11 月 5 日).

5. Kuribayashi, Yuu. TÜRKİYE TÜRKÇESİ VE ÇAĞDAŞ TÜRK LEHÇELERİNDE İKİ UNSURU FİLDEN OLUŞAN BİRLEŞİK FİLLER. VIII.MİLLETLER ARASI TÜRKOLOJİ KONGRESİ (第八回国際チュルク学会議) (イスタンブール大学、トルコ共和国 イスタンブール 2013 年 10 月 2 日).

6. Kuribayashi, Yuu. Causative / Anti-causative alternations in Turkish and Turkic languages. Paper presented at the International Conference on Turkish Linguistics 2012. (19 September 2012, Ankara, Turkey, Middle East Technical University)

〔図書〕(計 4 件)

1. Kuribayashi, Yuu. Causative / anti-causative alternations in Turkish, Old Turkic and Khalaj. Ankara Papers in Turkish and Turkic Linguistics. Deniz Zeyrek, Çiğdem Sağın Şimşek, Ufuk Atas, and Jochen Rehbein (eds.) Series Turcologica. Wiesbaden: Harrassowitz 出版予定 [査読有]

2. Kuribayashi, Yuu. TÜRKİYE TÜRKÇESİ VE ÇAĞDAŞ TÜRK LEHÇELERİNDE İKİ UNSURU FİLDEN OLUŞAN BİRLEŞİK FİLLER. Ozkan Mustafa and Dogan Enfel (eds.) VIII.MİLLETLER ARASI TÜRKOLOJİ KONGRESİ. Book of Papers II. Istanbul: Istanbul University Press. pp.187-196. 2014. [査読有]

3. 栗林裕「V+V 型複合動詞と語形成」影山太郎 (編)『複合動詞研究の最先端 謎の解明に向けて』東京: ひつじ書房 pp.267-293, 2014. [査読有]

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称:

発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況 (計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等  
<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~kuri/>

6. 研究組織  
(1) 研究代表者  
栗林 裕 (KURIBAYASHI YU)  
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授  
研究者番号: 30243447

(2) 研究分担者  
( )

研究者番号:

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号:

